

通 知

発信日: 2016 年 10 月 25 日

受信者: 中央幹部, 地域七十人, ステーク会長, 伝道部会長, 地方部会長,
ビショップ, 支部会長, ステーク評議会とワード評議会の構成員

発信者: 神権・家族管理評議会 (1 - 801 - 240 - 2134)

件 名: 同性にひかれる人々に仕え, 教え, 導く

末日聖徒
イエス・キリスト
教 会

個人, 家族, ならびにワード評議会は現在, 同性にひかれることに関する次の資料の最新版を利用することができます。

- LDS.org の Gospel Topics にある “Same-Sex Attraction” の項 (添付物参照)
- 「教会の教え」 (添付物参照)
- 「よくある質問」 (添付物参照)
- ウェブサイト Mormonandgay.lds.org (英語)
- 「仕え, 教え, 導くためのリソース」 (ministering.lds.org)。ワード評議会とステーク評議会の構成員は, 10 の言語で LDS.org の「指導者と書記のためのリソース」を利用できます。

これらのリソースをステークやワードの評議会集会で読み直してもよいでしょう。

同性にひかれること

2016年10月25日

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

Topics.Ilds.org の Gospel Topics より

同性にひかれることとは、同性の人に感情的、肉体的、あるいは性的にひきつけられることを指します。すべての人が同じように異性にひかれる気持ちを経験するわけではありません。同性だけにひかれる人もいれば、同性と異性の両方にひかれる人もいます。

教会は、同性にひかれることと同性愛行動を区別しています。同性にひかれる気持ちを感じる人々や、ゲイ、レスビアン、あるいはバイセクシュアルと自認する人々も、神と聖約を交わしてそれを守って、十分にふさわしい状態で教会に参加することができます。ゲイ、レスビアン、あるいはバイセクシュアルと自認することや、同性に心をひかれる気持ちを経験すること自体は、罪ではなく、それによって教会に参加することや召しを受けること、神殿に参入することを禁じられることはありません。

性的に清いことは、わたしたちを幸福にするための神の計画に必須の部分です。性的な関係は、結婚していて、互いに完全に忠誠を尽くすと約束している男性と女性の間でのみ結ぶものです。結婚していない男女や同性の人同士の性的な関係は、天の御父の最も重要な律法の一つを犯す行為であり、永遠に進歩することの妨げになります。どの性的指向の人も、純潔の律法を犯している人は、悔い改めを通して神に立ち返ることができます。キリストに従う者として、わたしたちは不道徳な行為を退け、キリストのようになるよう努めます。聖なる御霊の導きと救い主の助けを求めます。救い主は、わたしたちが誘惑を受けるときに助ける方法を御存じです（1コリント10:13；教義と聖約62:1参照）。性的な誘惑に屈して、純潔の律法を破ってしまっても、わたしたちは悔い改めて赦しを受け、完全な会員資格を得て教会に参加することができるのです。

同性にひかれる気持ちを持つ人がいる理由をわたしたちが正確に理解することができないとしても、一部の人のために、それは複雑な現実であり、人としての経験の一部です。救い主イエス・キリストは、わたしたちがこの地上で経験するあらゆる問題を完全に理解しておられました。そして、わたしたちは救い主に立ち返って慰めと喜び、希望、導きを得ることができるのです（アルマ7:11–12参照）。現世でどのような問題に直面しようと、わたしたちは皆、神の子供であり、互いの優しさと思いやりを受ける資格があります（ローマ8:16–17参照）。サポートする雰囲気を作るとき、わたしたちは互いに対して慈愛と共感の気持ちを抱き、一致した物事の見方と信仰を持つことから益を得ることができます。

個人と家族が完全な福音に従って生活し、この死すべき世を過ごす際に、御霊を求める助けとして、教会は次の資料を準備しています。『教会の教え』、『よくある質問』、mormonandgay.lds.org（英語のみ）。

mormonandgay.lds.org より

神は御自分のすべての子供を愛しておられる

神が御心によって御子を犠牲にされたこと以上に、神の愛の深さと広さを十分に示すものはありません。神の御子の犠牲は、神の子供であるわたしたちが死に打ち勝ち、永遠の命にあずかることができるようになるためのものでした。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16) 人類の罪を贖い、すべての苦難と不正行為を償い、すべての人のために死の縄目を断つために、イエス・キリストが進んで御自分の命を差し出されたこと以上に、イエス・キリストの愛を示すものはありません(アルマ 7:11-13 参照)。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」(ヨハネ 15:13)

2009年10月総大会の説教の中で、ディーター・F・ワークトドルフ管長は、神の愛について次のように述べています。

「神は人の外見を見てはおられません。住まいが城か小屋か、容姿が美しいかどうか、有名か無名か、そういうことは一切気にしておられません。わたしたちは不完全ですが、神はわたしたちを完全に愛しておられます。道に迷い、行き先が分からなくなったとしても、神の愛によって完全に包まれるのです。

神は神聖で清く、筆舌に尽くし難い無限の愛であふれているので、わたしたちを愛してくださいます。神にとってわたしたちが大切なのは、わたしたちが優れた経歴を持っているからではなく、わたしたちが神の子供だからです。神は、わたしたち一人一人を愛しておられます。」「(「神の愛」2009年10月総大会)

神はわたしたち全員を愛しておられます。宗教を異にする人々や信仰のない人々を愛しておられます。苦しんでいる人々を愛しておられます。富める者と貧しい者を等しく愛しておられます。あらゆる人種と文化の人々、既婚者や独身者、同性にひかれる気持ちを感じる人々や、ゲイ、レズビアン、あるいはバイセクシャルを自認する人々を愛しておられます。そして神はわたしたちに、御自分の模範に倣うことを期待しておられるのです。

わたしたちは主なる神を愛し、また互いに愛し合うように命じられている

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」(マタイ 22:37-39)

「わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 15:12)

わたしたちは神の戒めを守ることによって(ヨハネ 14:15 参照)、また互いに愛し合うことによって(ヨハネ 13:34 参照) 神にわたしたちの愛を示します。同性にひかれる気持ちを感じる、あるいはゲイを自認する家族や友人がいるならば、その人を愛してください。ヘンリー・B・アイリング管長は次のように述べています。

「だれか愛する人の存在を身近に感じていたいと願いながら、その人と遠く離れているとき、皆さんはこのようになさるのではないのでしょうか。まず、何らかの方法でその人に話し掛けることでしょうか。次にその人の声に

耳を傾け、そしてお互いのために何かできることがないか、考え出すわけです。このようなことを何度もすればするほど、そしてそれが長く続けば続くほど、愛のきずなも強まっていきます。逆に、話し掛けることもせず、耳を傾けることもせず、何もせずに、時間だけが過ぎていくようであれば、そのきずなは間違いなく弱くなります。神は完全かつ全能の御方であり、一方、わたしたちは死すべき存在です。しかし、神はわたしたちの御父です。わたしたちを愛しておられ、愛する友人を身近に感じるときのように、わたしたちが神に近づくための機会を備えてくださっています。わたしたちは友人を身近に感じたいと思うときと同じようにすればよいのです。すなわち、語り掛け、耳を傾け、主が望まれていることを行うのです。】(「神に近づく」1991年4月総大会)

あなたはほかの人々を愛し、その人々に仕えることによって、神に愛を示します。「そして見よ、わたしがこれらのことを語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということ悟らせるためである。」(モーサヤ2:17)

互いに愛し合うとはどういう意味でしょうか。愛は気遣います。愛は耳を傾けます。愛は受け入れます。愛は元気を与えます。愛はわたしたちを人間とするものの中心にあるものです。わたしたちは神の子供だからです。そして、「神は愛」です(1ヨハネ4:8)。最後の晩餐のときに、救い主は繰り返しこう言われました。「互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:35)

互いに愛し合うようにという戒めには、わたしたちと同じようには世界を見ていない人々を含みます。ダリン・H・オックス長老は次のように説いています。

「人生で経験する、実に多くの人間関係や状況で、わたしたちは違いを受け入れなければなりません。重要な状況において信念の違いを自分から否定したり、捨てたりするべきではありません。しかし、キリストに従う者として、わたしたちは異なる価値観を有する人や、自分たちにとって基本となる教えを受け入れない人とも平和に暮らす必要があります。預言者への啓示で示された御父の救いの計画により、わたしたちはこの地球という環境に置かれ、そこで主の戒めを守らなければなりません。そしてこの計画の中には、主がわたしたちを愛されたように、わたしたちも文化や信条の異なる隣人を愛するというチャレンジが含まれているのです。モルモン書の預言者が教えたように、わたしたちは『神とすべての人を愛して』力強く進まなければならないのです(2ニーファイ31:20)。」(「違いがあっても周りの人を愛し、受け入れる」2014年10月総大会)

神の愛は罪を免除しません—「主なるわたしは、ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはしない」—しかし、神は赦しを与えたいと思っておられます—「それでも、悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう。」(教義と聖約1:31-32) 同様に、わたしたちは神の戒めに従って生活し、戒めを擁護することで妥協してはなりません。しかし、神の愛に十分に見習うために、公然かつ完全に互いに愛し合うようにし、だれ一人として見捨てられた、孤独だ、あるいは希望がないと感ずることのないようにしなければなりません。

救い主はわたしたちの苦痛や苦難をすべて完全に理解しておられる

「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。」(1コリント13:12)

死すべき存在であるわたしたちの理解力は限られています。わたしたちはニーファイとともに、「神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません」と宣言することができます(1ニーファイ11:17)。

わたしたちは自分の旅路を進むために答えと指示を求めるとき、神を信頼し、またイエス・キリストの贖いの犠牲

に固有の力に頼ることができます。イエス・キリストは世の罪を引き受けられたことで、人が経験するあらゆる苦痛と苦難を御自身で経験されました。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。」(アルマ 7:11)

同性にひかれる気持ちを感じることは罪ではなく、わたしたちはそれに対応する方法を選ぶことができる

教会は同性にひかれる気持ちの原因についての見解を表明していません。2006年に、ダリン・H・オックス長老は次のように述べています。

「教会は、同性にひかれることも含め、このような感受性や傾向の原因についての見解を示していません。」(ダリン・H・オックス長老とランス・B・ウィックマン長老の2006年の会見：“Same-Gender Attraction”)

同性にひかれる気持ちを感じることは罪ではありません。M・ラッセル・バラード長老は次のように述べています。

「次のことを明確にしておきましょう。末日聖徒イエス・キリスト教会が信じているように、『同性にひかれる気持ちを感じることは、多くの人にとって複雑に入り組んだ現実です。心をひかれる気持ち自体は罪ではなく、その気持ちに従って行動を起こすことが罪なのです。そのような心をひかれる気持ちを持つ選びをすることはできなくても、その気持ちにどう対応するかは選ぶことができます。教会は、愛と理解をもって、[同性にひかれる人々]を含む、神のすべての子供に手を差し伸べます。』(「主は今あなたを必要としておられます!」『リアホナ』、2015年9月号、15参照)

同性にひかれることは罪ではないとはいえ、チャレンジであると言えます。これらの感情は自分の選びではないかもしれませんが、神の戒めを守ろうと決意することができます。同性にひかれる気持ちを感じている子供やゲイを自認する子供の親は、その子供を愛して受け入れることを選択しなければなりません。教会という社会の一員であるわたしたちは、人を歓迎する社会を築く選択をしなければなりません。

「そして主は、御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は……主のもとに来る者を決して拒められない。……すべての人が神にとって等しい存在なのである。」(2ニーファイ 26:33)

神の律法に従って生活する人々はあらゆる面で教会に参加することができる

「神は人をかたよりみないかたで〔ある〕ことが、ほんとうによく分かってきました。」(使徒 10:34)

神は、神の律法に従う者は永遠の喜びを得ると約束しておられます。そして、神は必ず御自分の約束を守られます。同性にひかれる気持ちを感じる人々やゲイを自認する人々も、神に約束し、その約束を守ることができるのは明らかです。そのような人々は神の光の中を歩むことができます。あらゆる面で教会に参加することができます。

「会員が同性に魅力を感じるものの、同性愛行為を行うことはない場合、指導者は、純潔の律法に従って生活し、義になっていない思いを抑えようと決意している彼らを支援し、励ますべきである。これらの会員は教会の召しを受けることができる。彼らはそのほかのあらゆる点でふさわしく、資格があれば、神殿推薦状を持ち、神殿の儀式を受けることもできる。」(『手引き 第2部—教会の管理運営』 21.4.6)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っています。

「わたしたちはそうした人たちを神の息子娘として愛しているということです。そういう人たちは、強力で、恐らく

は抑制し難い傾向を持っていると考えられます。大部分の人々は、折に触れて、何らかの傾向を持っていることに気づきます。そうした傾向に従って行動を起こさないかぎり、その人は、ほかのあらゆる教会員と同様に、前進を続けることができます。しかし、貞潔の律法や道徳の標準を犯すようなことがあれば、ほかの違背行為と同様に、教会にあって宗紀の対象となります。】(「人々がわたしたちについて尋ねること」1998年10月総大会)

状況はどうかであれ、人は、現在主の大義に貢献することができます。そして忠実であれば、現世でも来世でも、同じように忠実な人に神が約束しておられる同じ祝福にあずかると期待することができます。D・トッド・クリストファーソン長老は次のように述べています。

「すべての人には才能があり、それぞれの世代にあって、だれもが神の計画を進めるうえで貢献することができるのです。多くの良いもの、なくてはならないもの—ときには、現在必要なすべてさえ—理想的とはいえない境遇において達成できるのです。ですから皆さんの多くは自分にできる最善を尽くしていると思います。現世で最も重い荷を背負っていても、子供たちを昇栄に導くという神の計画を擁護してください。わたしたちはそのような人をいつでも支える覚悟でいます。イエス・キリストの贖罪は、イエス・キリストを頼るすべての人々の喪失や損失を予測し、最終的に、それらすべてを補うために成し遂げられたことを、確信をもって証します。御父が子供たちのために準備しておられるすべてのうちの一部にしかあずかれない運命にある人はだれ一人としていないのです。】(「なぜ結婚、なぜ家族か」2015年4月総大会)

純潔の律法は神のすべての子供に適用される

性的に清いことは、わたしたちを幸福にするための神の計画に必須の部分です。大管長会と十二使徒定員会は次のように宣言しています。

「神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。】(「家族—世界への宣言」)

結婚していない男女や同性の人同士の性的な関係は、天の御父の最も重要な律法の一つを犯す行為であり、永遠に進歩することの妨げになります。

「純潔に関する主の律法は、合法的な結婚関係によらない性的関係、ならびに夫婦の貞節を逸脱する性的関係を禁じている。性的な関係は、夫婦として合法的かつ正当に結婚した男女の間でだけ適正とされるものである。姦淫、私通、男性間または女性間の同性愛関係、その他のあらゆる汚れた不自然で不潔な行いは、罪深いものである。】(『手引き 第2部—教会の管理運営』21.4.5)

どの性的指向の人も、純潔の律法を犯している人々は、悔い改めを通して神に立ち返ることができます。

「あなたは姦淫をしてはならない。姦淫をして悔い改めない者は、追い出されなければならない。しかし、姦淫をしても、真心から悔い改め、それを捨てて、再び行わない者を、あなたは赦さなければならない。】(教義と聖約42:24-25)

mormonandgay.lds.org より

どうして「同性にひかれる〔Same-sex attraction (SSA)〕」という言葉を使用するのでしょうか？ どうして「ゲイ」と言わないのですか？

「同性にひかれる (SSA)」とは、同性の人に感情的、肉体的、ロマンチックに、あるいは性的に引き付けられることを指します。同性に心をひかれる気持ちがある場合、自分自身について述べるのに性的指向の呼称を用いることもあれば、そうでないこともあるかもしれません。いずれにしても、「同性にひかれる (SSA)」とは、そのような呼称を付けることなく表現するための専門用語です。このウェブサイトでは、ゲイ、レスビアン、あるいはバイセクシュアルの認識を否定することなく、そのような呼称を用いることを心地よく思わない人々を包括するためにこの用語を使用します。

ウェブサイトに性別違和やトランスジェンダーの問題が採り上げられないのは、なぜでしょうか？

このウェブサイトで紹介される一般的な原則の多く（多様性を受け入れることや思いやりを示すことの重要性など）は、性別違和を感じる末日聖徒やトランスジェンダーと自認する末日聖徒にも適用されます。しかし、同性にひかれることと性別違和は非常に異なっています。例えば、性別違和を感じる人は、同性にひかれる気持ちを感じることもあれば、そうでないこともあります。また、同性にひかれる気持ちを感じる人々の大多数は、自分の性別を変えたいとは思っていません。心理的また教導的観点から、この二つは異なっています。

自分はゲイかもしれないと自問しているのですか？

自分はゲイかもしれないと自問しているのであれば、恐らくあなたは同性にひかれる気持ちを感じたことがあって、その気持ちをどう解釈したらいいのかと思いつらしているのでしょうか。性的欲求は複雑であり、多くの要因から影響を受けます。ロマンチックに、感情的に、あるいは性的にひかれることは性的指向を示唆するものである可能性があるとはいえ、そうだと決めてかかってはなりません。性的欲求は流動的で変わりやすいものです。疑わしいと思っても、プレッシャーを感じたり、性的指向について結論を出すようせかされていると感じたりするには及びません。

言葉の持つ意味は人によって様々に異なり、また言葉の定義はわたしたちの生涯でよく変わることがあります。あなたにとって、「ゲイ」という言葉はどのような意味があるのでしょうか。それは気持ちでしょうか。アイデンティティーでしょうか。ライフスタイルでしょうか。「ゲイ」という言葉の使い方は、社会や文化の変化に応じて変わってきました。ゲイを自認することは、同性にひかれる気持ちを感じつつも、その気持ちを行動に移さないという選択であるかもしれません。あるいは、この呼称は、感情的、肉体的、性的、または政治的に自分自身を表現するものであるかもしれません。「わたしはゲイです」と言う人がいる場合、それがどのような意味か分からなければ、その人に尋ねてください。

わたしはカミングアウトすべきでしょうか？

同性にひかれる気持ちを内に秘めていると、恥辱感を抱いたり、心の中で自分に否定的に語り掛けてしまうようになる人々があります。信頼できる友人に気持ちを伝えると、解放感と癒しを得ることができます。しかし、中にはもっと待ってからにすればよかったと思う人や、少なくとも気持ちを打ち明ける相手の人数を制限すればよかったと思っている人もいますので、公に「カミングアウト」したり、あるいはゲイであることを率直に認めるよう

にというプレッシャーに屈してこの決断を下すというようなことをしてはなりません。同性にひかれる気持ちを打ち明けようと決心したら、祈りの気持ちをもってそのことを話したい相手について、また現世におけるこの経験を伝える方法について考えてください。

同性にひかれる気持ちについての経験を伝えようと、あるいはゲイであると率直に認めようと決心するとき、あなたは家においても教会でも、思いやりと敬意のあるサポートや対応を受けるべきです。わたしたちは皆、状況を理解しながら、互いに忍耐強くある必要があります。

教会員であるわたしたちは皆、すべての兄弟と姉妹のために協力的で愛にあふれた環境を作り出す責任があります。このようなサポートネットワークは、福音に従って生活するのをさらに容易にしたり、死すべき世であらゆる状況にあっても御霊を求めるのをもっと容易にします。

同性にひかれることについて両親やビショップにどう話せばよいでしょうか？

親や家族の一員、教会指導者と気がねなく話せるようであれば、あなたの気持ちを伝えることを考えてみてください。あなたが経験していることを理解すれば、彼らは愛を示し、サポートしてくれるでしょう。この経験がどういうものであるかを彼らが理解していなければ、このウェブサイトの記事を読んでもらってください。このことを切り出すのは容易ではないかもしれませんが、対話を始めることが重要です。周りの人々に忍耐強くあってください。そして、みんな一緒に学んでいるということ覚えておいてください。あなたの愛する人々が理解したり、協力的になることに苦しんでいる場合は、あなたが助ける必要があるかもしれません。自分が示してもらいたいと思うような思いやりを持ち、親や指導者に敬意をもって接してください。このウェブサイトの目的は、同性にひかれることについて、福音の観点からもっとよく理解できるようにすべての人を助けることです。

十分に忠実であれば、同性にひかれるわたしの気持ちは消え失せるでしょうか？

同性にひかれる気持ちの強さはあなたの忠実さの度合いを計るものではありません。多くの人が、従順であろうとして何年間も祈り、自分が行えるすべてのことを行っています。それでも同性にひかれます。同性にひかれる気持ちの強さは様々であり、すべての人が同じではありません。男性と女性の両方にひかれる人もいれば、同性だけにひかれる人もいます。同性にひかれる気持ち、あるいは少なくともその感情の強さが、徐々に弱くなる人もいます。いずれにせよ、親や指導者は、結果として同性にひかれる気持ちが変わることを期待したり、求めたりしてはなりません。

同性にひかれる気持ちの強さはコントロールできないかもしれませんが、その気持ちに対してどう行動するかについては選択することができます。この経験から何を学ぶことができるか、またこれを自分の力とするにはどうすればよいか主に尋ねることで、あなたは自分でコントロールすることができる結果に信仰を集中することができます。あなたの生涯を主に託すことは信仰の証となる重要な行為であり、それによって現世で大いなる祝福が、そして来るべき世でさらに大いなる祝福がもたらされます。

教会は将来、教義を変えて、同性婚を認めるようになるでしょうか？

神の計画の中核を成す男女の間の結婚の教義は、末日聖徒イエス・キリスト教会の必須の教義であり、今後も変わりません。

「聖典に基づく教義上の原則として、教会は、男女の間の結婚は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画にとって重要であることを断言している。

性的な関係は、夫婦として合法的かつ正当に結婚した男女の間でだけ適正とされるものである。それ以外の性的関係は、同性同士も含め、神聖に創造された家族制度を損なうものである。したがって、教会は、結婚とは男性と女性の間で合法的かつ正当な結びつきであるという定義を確認している。」(『手引き 第2部—教会の管理運営』 21.4.10)